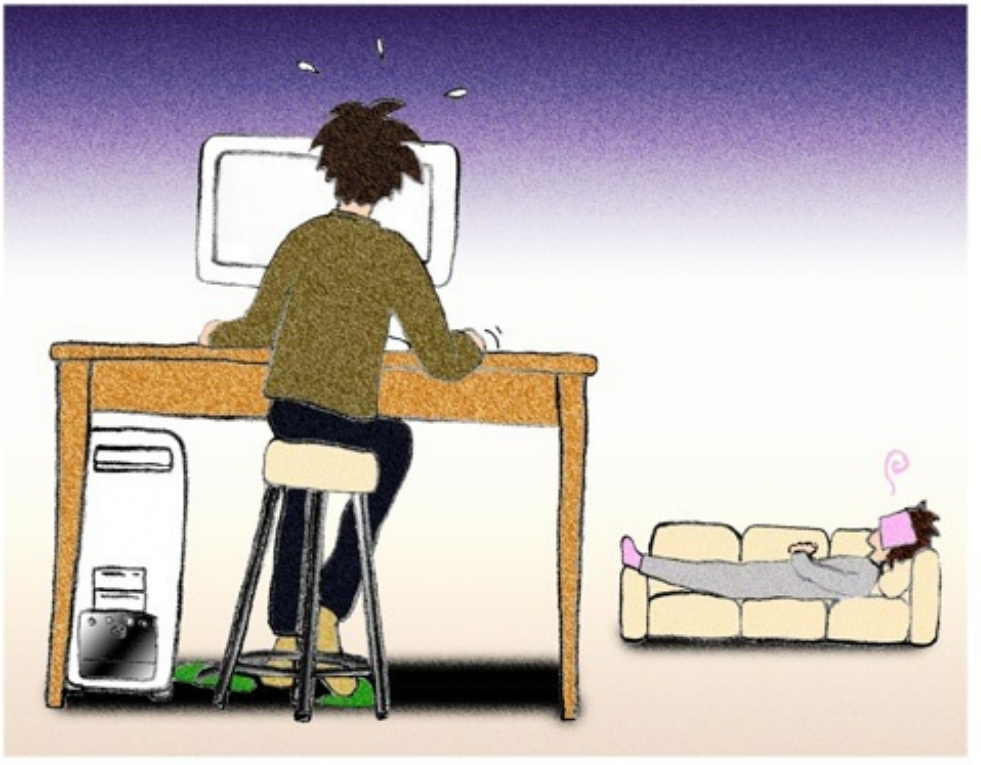
続・パパは
ハイテンション



僕のパパは「ハケンシャイン」…だった。

今はケイヤクシューリョーしてキューショクチューなんだって…

ママはそれを聞いて倒れてしまった。

パパは言う

「もーちょっとで次の仕事が見つかるから…

なーに、パパのスキルは高いから選り好みしなけりゃ

いくらでも仕事はあるんだから…。」

そう言ってもう何日もPCに向かっているけど

最近は「メンセツ行ってくるー」って

スーツ着てお出かけすることもない気がする。

前はあんなに怒っていたママが元気ない。
ママがしょんぼりしてると家の中がくらーくなる。
パパもしょんぼり
ボクもしょんぼり
笑って欲しくて
何か楽しいことをやろうと思ったけど…
ママもパパも見てくれない…。

「いつになったら仕事が見つかるの！」

ある日、ママが大きな声でパパに怒鳴った。

「いくら立派なこと言ってても食べていけなきゃ
どーしよーもないんだからね！」

「分かってるよ。今でも数件返答待ちだから
もう少し待ってろよ！」

「いつまで待ってる気？
家賃や光熱費や税金はいつまでも待ってくれないんだよ！」

もうやめてよ！
ママとパパがケンカしてるとコワいし
悲しい…。

今度はパパが暴れだした！

何を言っているのか分からないぐらい

わめき散らしている。

ママのお化粧グッズや

ボクのオモチャを投げて壊してる！

やめてよ！パパ！

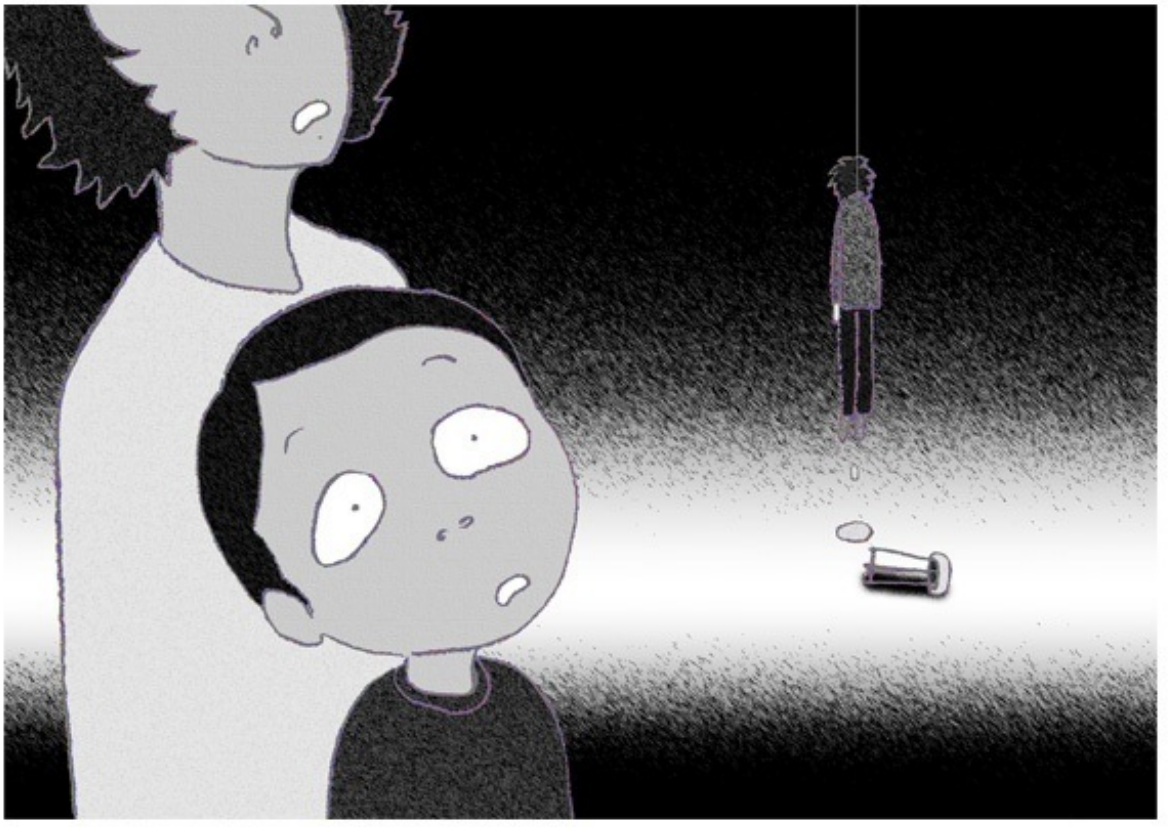
ウチの中はもうむちゃくちゃ！

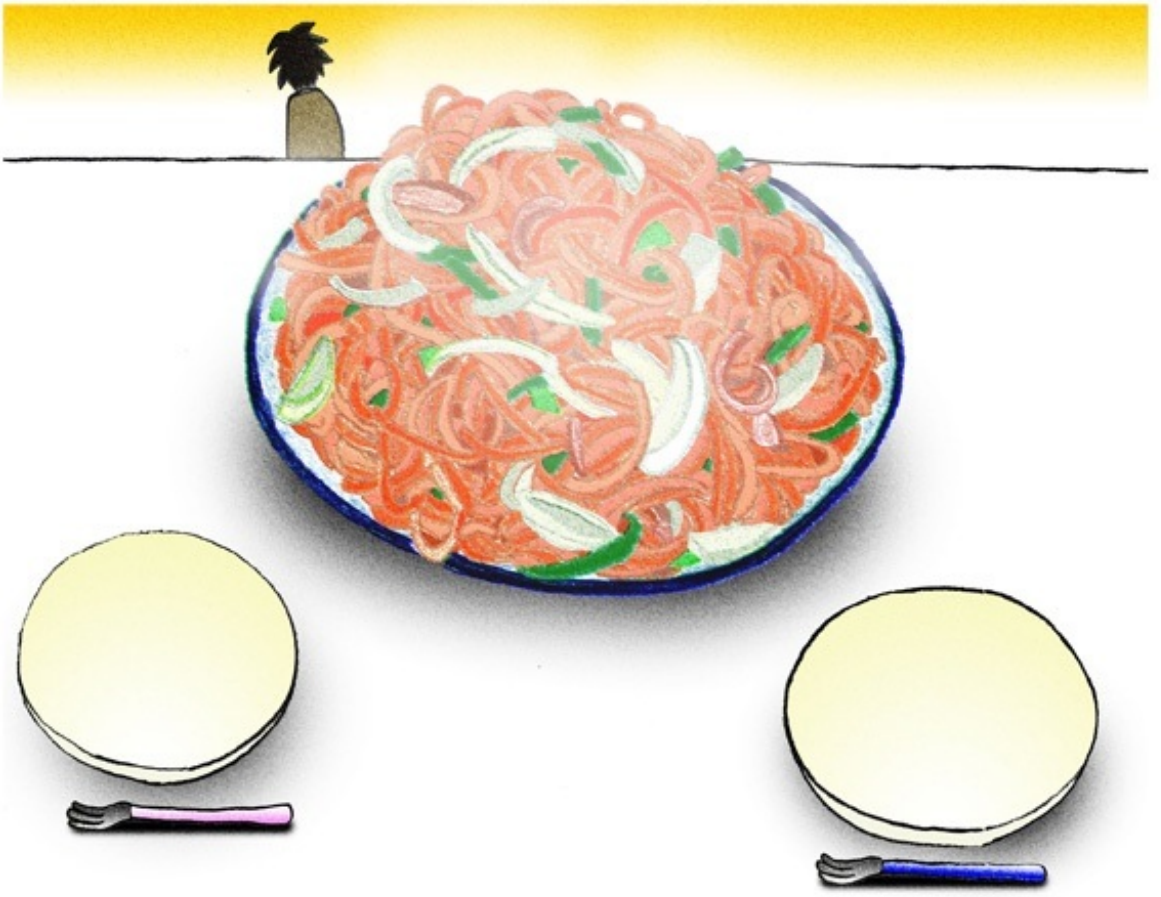
ママは慌ててボクを抱えて家を出た。

しばらくしてママのケータイにメールが来た。

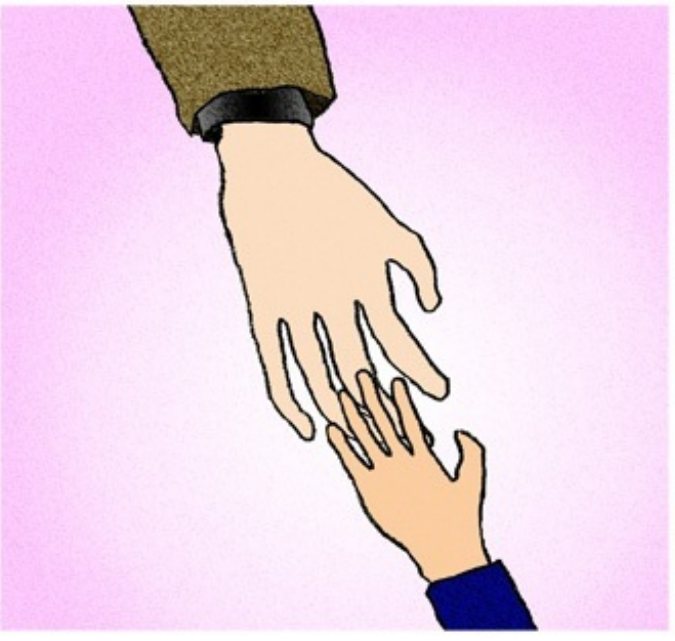
「もう大丈夫みたい…。」

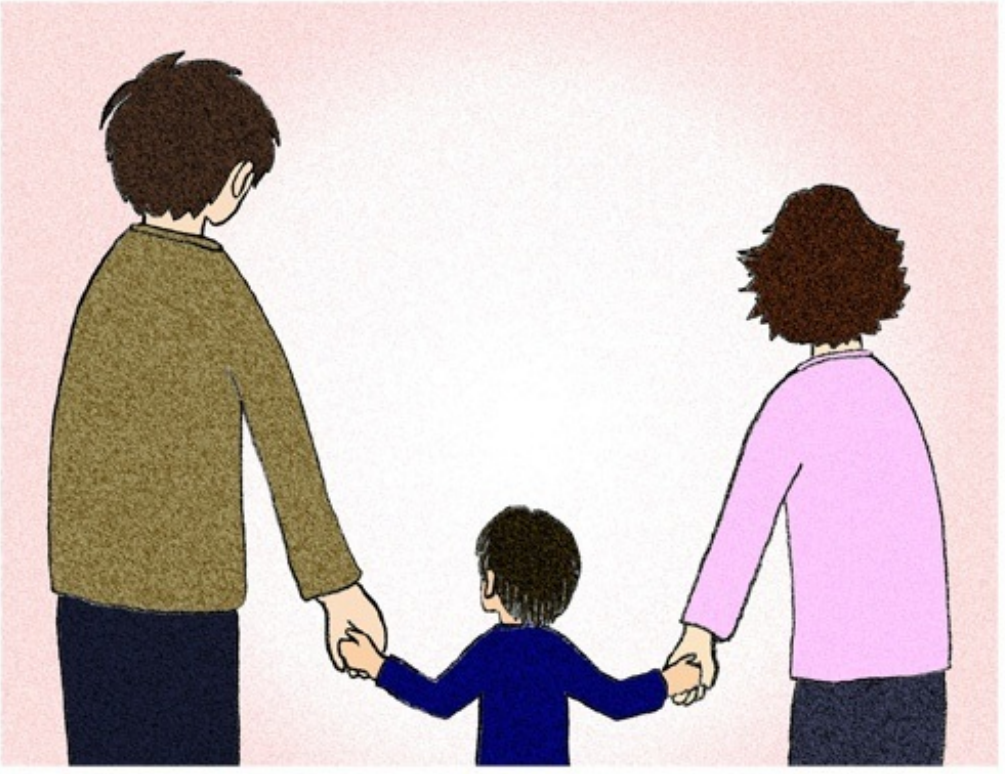
そう言うとママはボクの手を引いて家に帰った。





「ゴハンだよー起きて。」
パパが言った。
気が付くとソファーで寝てた。
ウチの中は元通り
ボクのオモチャも壊れていない…。
夢だった？
テーブルにはいつものパパ自慢のパスタがある。





「いっしょにガンバロ…」

家族なんだから…

いっしょにいれば大丈夫。

みんないれば

きっと大丈夫…。

〈おわり〉